

2020・8・1

オオゴマシジミ生態調査①

オオゴマシジミはゴマシジミ同様、幼虫はアリの巣の中で育つという奇習をもち、かつ生息地が限定される観察困難種です。私たちも「完本」制作の折には主に月形町の産地で何度も幼虫探しに挑み、最後の最後に芝田氏が奇跡的に1頭の幼虫を朽ち木から見い出し、飼育したといういわくつきの難敵です。



月形で発見したオオゴマ幼虫(2015年6月19日)





林道に入り谷の方に目をやると、とんでもない光景が。大量のゼフがうねるように乱舞しています。上の写真ではその様子はよくわからないと思います。TGで動画を撮り再生してみるとその凄さがうまく記録されていました。近くの葉に止まった個体を見るとアイノミドリシジミでした。他のゼフも混じっているかもしれませんが、どうもアイノ主体の集団の様です。3人ともこんなの見たことないと啞然と見つめる次第。まあ、今回の目的があるので、目に焼き付けて移動することに。





クロバナヒキオコシが群生する生息地に到着。じりじりと日差しが強い。大きめのブルーがちらちら飛ぶのをすぐに発見。なかなか止まらない。道端のウツボグサで吸蜜する個体を発見。するともう1個体が乱入。♂♀の絡みというよりただ吸蜜する場所の奪いあいをしているようだ。



翅を開いてやって来たのは♂



花を♂にとられ、奪い返そうとする♀



先ほどの2個体のうちの♀がその場周辺にとどまって、産卵やら吸蜜やら翅を広げての休息やらいろいろ見せてくれた。魚眼などでぎりぎり近寄っても平気な顔をしている。よく見るとその頭から出ている触角の片方が途中で切れている。それでも行動には支障がないようだ。







なんだかモデル撮影会の様相を呈している。  
食草の先端部の若い花芽を選んで産卵する  
様子を動画でも撮影することができた。とても  
えらい雌でした。  
汗が吹き出しそこにウシアブ系がちくちく刺し  
に来る。そんな暑さに閉口したのか、オオゴマ  
の飛来も少ない。飛んでいるのは新鮮なもの  
が多く発生の初期の感じでもあった。



さて、幼生期の生態調査の方ですが、まずホストのアリを探しことに。Kさんが実力発揮。クシケアリの巣がありますね。と木の生える斜面をごそごそしている。今までここで何回か、食草の生える斜面でアリのコロニーを探しているのですが、ちょっと目のつけ方が違ったみたいだった。



アリの巣はやはり地面に埋没する朽ち木の中にあつた。蛹は無いかなと探すが、そう簡単には見つからない。



アリの巣の状況がだいたいつかめた。ここをさがせば行けそうだと確信。  
今回は我が家から庭で伐採した古い材を持ってきたので、アリが巣を作ってくれることを期待してあちこちに埋めて見た。アリが営巣しそこにオオゴマ幼虫を連れ込んでほしいのです。



埋め込んだ朽ち木



天然の朽ち木コロニー





暑いし腹も減った(昼飯を買いそびれた)ので、片触角の♀にも、たくさん卵を産んでくれよと別れを告げることに。



帰る途中にKさんが、「仁木町のオオムラサキを見に行きます」というのでついていくことに。



この崖にエゾエノキが結構生えている。  
周辺でミンミンゼミとツクツクボウシが鳴いている。

K氏曰く。この場所の他、余市、古平などにエゾエノキが点在していて、オオムラサキの発生状況を追いかけているそう。今度幼生期を見に来よう。



しばらくすると高い梢の周辺に大きなチョウが飛んできた。アブラゼミを追っかけた。♂の様だ。少し低いところに止まったのをパチリ確かにオオムラサキだ。



おわり